

◆「啄木と鉄道」年譜

年号	西暦	年齢	主な出来事
明治5	1872	-	*新橋-横浜間開業。
明治6	1873	-	*太陰暦(旧暦)から太陽暦(新暦)に改暦。
明治7	1874	-	*大阪-神戸間開業。
明治10	1877	-	*京都-大阪間開業。大阪駅構内に工技生養成所開設(鉄道技術者の養成所※明治15年閉鎖)。
明治13	1880	-	*釜石-大橋間開業(工部省釜山寮所属、明治15年末廃止)。 *京都-大津間開業(養成所出身の技術者らの活躍)。手宮-札幌間開業(北海道開拓使所属)。
明治14	1881	-	*東京馬車鉄道会社設立。日本鉄道会社設立(日本初の民間資本の鉄道会社)。
明治15	1882	-	*東京馬車鉄道、新橋-日本橋間開業(日本初の馬車鉄道)。 *札幌-幌内間開業(手宮-幌内間全通、同年北海道開拓使廃止に伴い工部省所属)。
明治16	1883	-	*日本鉄道、上野-熊谷間開業。
明治17	1884	-	*日本鉄道、前橋まで開業。 *長浜-敦賀間開業(日本海側と関西が繋がる※ただし大津-長浜間は舟運)。
明治18	1885	-	*日本鉄道、赤羽-品川間開業(山ノ手線)。大宮-宇都宮間開業。工部省廃止に伴い鉄道局が内閣所属。
明治19	1886	0	2月20日石川一(はじめ※のちの啄木)が日戸村(現岩手県盛岡市)の常光寺で誕生。 *北海道庁設置に伴い、幌内鉄道(手宮-幌内間)が同庁へ所属。
明治20	1887	1	3月父一禎が寶徳寺住職となったため、一家で洪民村(現岩手県盛岡市)へ移る。 *日本鉄道、塩釜まで開業。私設鉄道条例公布。
明治22	1889	3	*東海道線(新橋-長浜間)が全通。幌内鉄道が北海道炭鉱鉄道会社へ払下となる。
明治23	1890	4	*第三回内国勸業博覧会(東京・上野公園開催)で、米国輸入の電車が公開。日本鉄道、盛岡まで開業。
明治24	1891	5	5月洪民尋常小学校入学(現盛岡市立洪民小学校、学齢より1年早く入学)。10月長姉サダと田村叶結婚。 *日本鉄道、青森まで開業(上野-青森間全通、好摩駅もこの時開業)。
明治25	1892	6	*鉄道敷設法公布。
明治27	1894	8	*釜石釜山山中製鉄所、大橋-釜石間の馬車鉄道開業。
明治28	1895	9	4月盛岡高等小学校(現盛岡市立下橋中学校)入学。仙北組町(現盛岡市仙北)の伯父工藤常象宅に下宿しながら通学。この年、後に次姉トラの夫となる山本千三郎が盛岡駅へ配属(下宿先は海沼イエ宅)。
明治29	1896	10	春頃、工藤常象宅から大沢川原小路(現盛岡市開運橋通)の伯母海沼イエ宅へ、まもなく新築地(現盛岡市大沢川原)のイエの娘海沼ツエ宅に下宿を移る。 *北海道鉄道敷設法公布。
明治30	1897	11	8月次姉トラが山本千三郎と結婚(千三郎は当時福島・湯本駅勤務)。
明治31	1898	12	4月盛岡尋常中学校(のちの盛岡中学校。現岩手県立盛岡第一高等学校)入学。
明治32	1899	13	6月夏休みを利用し、上野駅に転勤になった次姉山本夫妻を訪ねる(啄木はじめての上京)。
明治33	1900	14	1月義兄田村叶が日本鉄道・盛岡工場へ就職(塗装工手伝い)、帷子小路(現盛岡市中央通)に家族で転居。啄木、この年田村家に下宿を移す。7月担任富田小一郎引率で盛岡中学同級生と南三陸修学旅行参加(釜石他)。
明治34	1901	15	長姉田村一家の引っ越しに伴い、6月長町(現盛岡市長田町)、10月四ツ家(現盛岡市本町通)、11月仁王小路(現盛岡市中央通)へと一緒に移る。
明治35	1902	16	5月盛岡中学同級生らと修学旅行に参加(石巻、松島、仙台)。10月雑誌『明星』に、石川白蘋(はくひん)の名で短歌が載る(『明星』での初掲載)。盛岡中学を中退。11月文学で身を立てるため上京。
明治36	1903	17	2月体調を崩し父一禎に連れられ洪民村に帰郷。12月雑誌『明星』に、石川啄木の名で詩「愁調」が載る。 *東京馬車鉄道が電氣化され路面電車が整備されはじめる。
明治37	1904	18	9~10月はじめての北遊(当時小樽駅長だった義兄山本千三郎や北海道の知人らを訪問)。詩集刊行のため上京。 12月父一禎が曹洞宗本山への宗費滞納のため寶徳寺住職を辞めさせられる。 *北海道鉄道株式会社、小樽-函館間が全通。
明治38	1905	19	5月詩集『あこがれ』刊行。堀合節子と結婚(婚約には長姉サダ尽力)し、帷子小路で父母、妹ミツと一家5人での生活開始。6月加賀野磧町(現盛岡市加賀野)に転居。
明治39	1906	20	2月函館の次姉山本夫妻を訪問(千三郎は当時函館駅長、啄木一家の窮状打開相談も結論出ず)。秋田・鹿角郡小坂町で長姉田村サダ死去(死因結核症、夫叶が小坂釜山の塗装工として転職したため家族で移住していた)。4月洪民村の母校洪民尋常高等小学校(明治31年改称)の代用教員となる。12月長女京子誕生。 *鉄道国有法制定。
明治40	1907	21	4月代用教員を辞め、5月洪民を離れる(一家離散)。妹は次姉山本夫妻を頼り小樽へ(千三郎は当時小樽中央駅長、11月に岩見沢駅長)、啄木は以前から交流があった文学仲間首蓆社を頼り函館へ向かう。 7~8月函館に家族を呼び寄せるも、8月函館大火のため職場が焼失。職を求め、札幌・小樽と渡り歩く。 *十勝線狩勝隧道が完成し、旭川-釧路間が全通する(これにより、北海道の東西が結ばれる)。
明治41	1908	22	1月釧路新聞社へ転職するも文学への思いが捨てきれず、4月家族を函館に残し単身上京(函館-横浜海路)。 5月本郷区菊坂町赤心館、9月同区森川町蓋平館別荘で金田一京助と同宿(どちらも現文京区)。 *鉄道院設置(初代総裁は当時通信大臣を兼ねていた後藤新平)。
明治42	1909	23	3月東京朝日新聞社就職(校正係、路面電車通勤)。6月家族上京のため本郷区弓町喜之床に転居(現文京区)。
明治43	1910	24	10月長男真一死去(生後24日)。12月歌集『一握の砂』刊行。この年、義兄山本千三郎、手宮駅長就任。 *軽便鉄道法公布。
明治44	1911	25	2月慢性腹膜炎を患い入院し、退院後も自宅療養となる。8月小石川区久堅町の借家へ転居(現文京区)。 *東京の路面電車各社が東京市に買収され東京市電氣局(現東京都交通局)となる。
明治45 大正元	1912	26	3月母カツ死去(死因結核症)。4月13日啄木26歳2か月で死去(死因結核症)。 6月次女房江誕生。第二歌集『悲しき玩具』刊行。 この年、義兄山本千三郎、室蘭運輸事務所長心得に就任(父一禎、昭和2年没まで山本家の世話に)。
大正2	1913	-	5月函館で啄木の妻節子死去(死因結核症)。

年齢欄は啄木の満年齢。主な出来事欄は啄木と鉄道に関わる出来事を中心に表記。*年譜:石川啄木記念館第15回企画展「啄木と鉄道」(2021.9.28-2022.1.23)より